

災害ボランティア活動用資機材の管理と有効活用に関する研究

長岡技術科学大学大学院 環境社会基盤工学専攻 非会員 酒井 琢
 長岡技術科学大学大学院 環境社会基盤工学専攻 正会員 松田曜子

1. はじめに

水害や地震などの自然災害は、日本で頻繁に発生している。現在では、災害の被災地にボランティアが駆けつけ、家屋の清掃や避難所での支援を行うのが通例となっている。ボランティア活動に必要な不可欠なものとして、災害ボランティア活動用資機材がある。例えば、堆積した泥を清掃するスコップや荷物、泥を運搬する一輪車等がある。本研究では、災害ボランティアセンター⁽¹⁾を設置する際の重要な組織である全国の都道府県、市町村社会福祉協議会（以下、「社協」と称する）においてボランティア活動を効率よく行うためのボランティア活動用資機材の有効活用の方策について分析することを目的とする。

2. アンケート実施

今回、2004年以降に災害ボランティアセンターを開設した経験のある全国の市町村社協（市町村合併後に支所となった社協を含む）および都道府県・指定都市社協を対象に資機材の保管、管理、貸し出しについてのアンケート調査を行った。アンケートの回収結果は次の表1のとおりである。

表1 アンケートの回収結果

送付先	配布数	回収数	回収率
市町村社協	499	328	65.7%
全都道府県・指定都市社協	67	60	89.6%

3. アンケート分析

今回は市町村社協のアンケート結果を用い分析を行った。

3.1. 貸し出し方式に関する検討

資機材を他の地域に貸し出すことが出来るかという問いに対して、図1のような結果が得られた。また、資機材を他の地域に貸し出した資機材が不足なく返却されることが必要かの問いに対し図2のような回答が得られた。

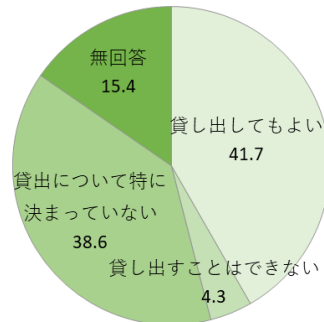


図1 資機材の貸し出し可否

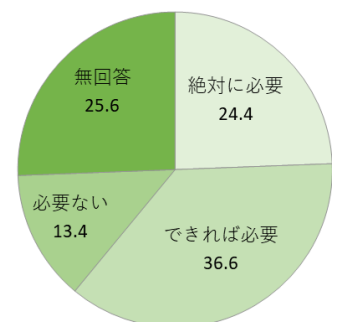


図2 資機材の貸し出し条件（不足のない返却）

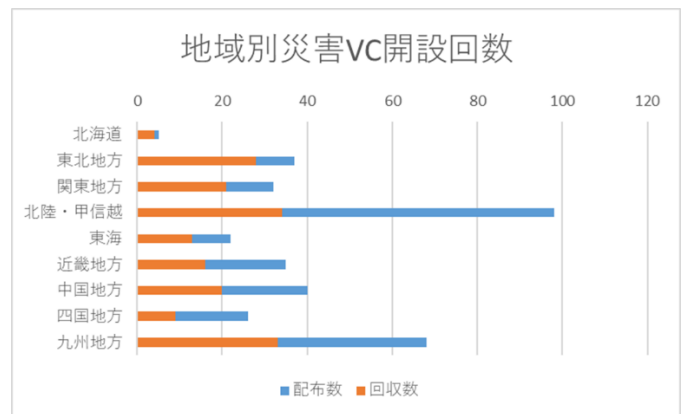
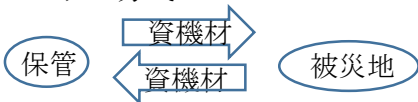


図3 地域別災害ボランティアセンター開設回数

今回のアンケート調査によって地域別の災害ボランティアセンター開設回数が明らかになった。このことより、北陸・甲信越、九州地方は災害が多いことが分かる。また、資機材の返却が必要ないと回答した市町村社協の資機材の貸し出し方式は、最後に被災した市町村が資機材を保管し、次に災害が起きた地域へ渡していく方式（以下「リレー方式」）であると考えられる。また、返却が絶対に必要と回答した市町村社協は被災した市町村へ資機材を送り、使い終わると返却してもらう方式（以下「レンタル方式」）であると考えられる。

この2つの異なる方式の市町村同士で資機材の貸し借りが行われた場合、混乱が発生すると考えられる。借り手が返却しようとしたとき、貸し手がリレー方式を取っていた場合、返却を拒まれるまたはその逆も有り得る。

レンタル方式



リレー方式

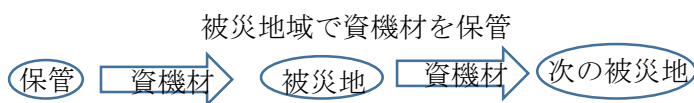


図4 レンタル方式とリレー方式の模式図

3. 2. 貸し出し可否

図1の回答より多くは貸し出しに関して貸し出してもよい、または貸し出しについて特に決まっていなと回答していた。しかし、貸し出すことはできないという回答も少数ではあったが確認できた。

3. 3. 資機材の貸与のルールの検討

それぞれの地方別のボランティアセンター開設経験のある社協の資機材の貸す範囲の決定を行うことで資機材の貸し借りの効率化する目的で資機材の貸与のルールの検討を行った。貸し出す被災地が同一都道府県にあることが必要かの問いに対し図5のような回答が得られた。また、貸し出す被災地が同一ブロック内にあることが必要かの問いに対しては図6のような回答が得られた。

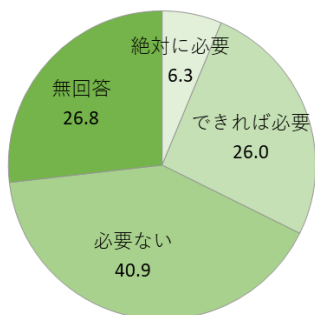


図5 貸し出す被災地が同一都道府県内

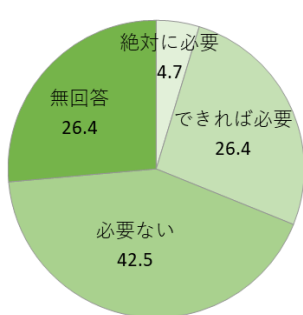


図6 貸し出す被災地が同一ブロック内

図5、図6より貸し出す被災地は同一都道府県内にある必要がないもしくは同一ブロック内でなくてもよいという市町村が多く見られるという結果が得られた。また、都道府県内での貸与のしやすさとリレー方式、レンタル方式での貸し借りをを行っている地方の関係を表2に表した。貸与のしやすさは、図5のような回答に対して点数を付けることで比較した。

表2より都道府県内での貸与のしやすさは、リレー、レンタル方式とはほぼ関係がない事がわかる。

都道府県内の貸与には資機材の所有数も関係しているのではないかと考える。

表2 都道府県内での貸与のしやすさ(地方別)

	リレーor レンタル	都道府県内 での貸与
北海道	レンタル	○
東北地方	レンタル	○
関東地方	レンタル	◎
北陸・甲信越地方	リレー	◎
東海地方	レンタル	◎
近畿地方	レンタル	○
四国地方	レンタル	○
中国地方	レンタル	○
九州地方	リレー	◎

4. 考察

本研究によって貸し出し方式には返却が不要な、リレー方式と返却が絶対必要であるというレンタル方式の2つの方式が確認された。しかし地域別に見たとき、リレー方式は、災害ボランティアセンターを開設した経験が他地域より多い北陸・甲信越、九州地方で多く見られた。災害が多い地域は、他地域からの資機材の寄贈が多くなってしまふ。しかし、資機材の保管場所には多数の条件が必要であり、その場所は限られてしまふ。そのため、自地域では資機材を抱えることができなくなってしまう。そこで次の被災地に寄贈することで自地域の資機材保管の負担を軽減させているのではないかと考えられる。レンタル方式は、特に関東地方、近畿地方で多く見られた。関東地方と近畿地方は災害ボランティアセンターを開設した経験が少なく、近隣での災害が少ないため、リレー方式を行ったとき資機材が循環しないことからレンタル方式を選択しているのではないかと考えられる。また、貸し出す被災地が都道府県、同じブロック内にあれば貸す側にとってはあまり重要ではないことがわかった。貸す側にとって重視することはどのくらいの資機材を所有していることではないかと考えた。所有数によって貸し出しに積極的になれるのではないかと考える。

参考文献

1) 内閣府防災担当災害VCの設置運営(2018)